



ひとう



海援隊旗(二曳きの旗)

http://www.ryoma-kinenkan.jp

不撓 FUTO FUKUTU 不屈

「風になった龍馬」展 きっかけは龍馬記念館企画

アメリカフォーラム
35人の思い実る
「坂本龍馬財団」設立へ

昨年10月坂本龍馬記念館の20周年事業企画「風になった龍馬VOL.3」時代は未来へ」の最終イベントとして実施した「アメリカフォーラム」がきっかけとなり、35人の同フォーラム参加者が中心となって「坂本龍馬財団」が発足する運びとなった。混迷の度を深める世界の現状に私心なく立ち向かえる人づくり、国づくりが狙い。その具体的な目標として、世界の情報が集まるニューヨークに「龍馬スピリッツ」発信基地を作る構想が浮かんだ。仮称「ニューヨーク龍馬ミュージアム」。龍馬の歴史的資料館と言うのではなく、資料とは別に現代の日本人が龍馬をどう自らの中に受け入れているかを絵、写真、書、立体などで表現した作品を展示しようというもの。作者はプロ、アマ、年齢も問わない。資金は思いを共有する人たちの募金である。35人は郷土坂本家9代、坂本登さん、勝家玄孫、高山みな子さん、中濱家5代中濱京さんら関係者はもちろん、龍馬記念館の職員、報道関係者、学校関係会社員、主婦、高校生、活動している地域も高知、東京、福岡などそれぞれだけにまさに「海援隊」状態である。

森 健志郎

企画展「龍馬の青春」——龍馬と加尾と収二郎—— 青春の真つただ中に存在する「光と影」

4月1日(日)〜6月29日(金)

龍馬の初恋の人といわれる平井加尾。兄は土佐勤王党で武市半平太の片腕ともなつて動き、青蓮院宮令旨事件で山内容堂の怒りにふれ切腹させられた収二郎。一般的にはあまり知られていなかった二人は、一昨年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」でその存在に大きな光があつたといえよう。



加尾の愛した庭(高知市神田、小川邸)

文久三年(一八六三)六月二十九日、龍馬は姉乙女に、いわゆる「日本の洗濯」で有名な手紙を書いた。脱藩した翌年、勝海舟とともに海軍建設に向けて奔走する時期で、文面は伸びやかで力強い。長さも三頁を超えている。

幕府に対する義憤、乙女への冗談交じりの忠言、自嘲しながら命がけの決意もどく。最後には、家族や知人へのご機嫌伺いにまぎれ込ませるように、「平井の収次郎ハ誠にむごいく。いもふとおか(加尾)がなげきいか斗か、ひとふで私のよふすなど咄してきかしたい。まだに少しハきづかいもある」とある。龍馬書簡を代表するこの手紙は、心中深く

ある平井兄妹への思いで締めくくられている。

当時、龍馬二十九歳(数え年)、加尾二十六歳(同)、収二郎二十九歳(享年)。この手紙の四年前、加尾は、京都の三条公睦に嫁した後未亡人となった山内容堂の妹・信受院(驛姫のち恒君)の付き人として京都に赴いた。四年後、加尾が土佐に帰ったときには、龍馬は脱藩した後で、加尾の上京以来、二人は二度と会うことはなかった。青春の終着。人生の光と影が三人を濃く縁取る。

今回、勤王運動の中で忠孝に生きた平井兄妹と、龍馬を追いました。また、加尾の子孫、平井・西山家が高知県立歴史民俗資料館に寄託した資料などを中心に、前期と後期に入れ替えてご紹介いたします。

□主な展示資料

【前期】4月1日〜5月25日

坂本龍馬等寄せ書き襷紗、「隈山春秋」第一、第二、平井収二郎・加尾兄妹往復書簡写本、いづれも平井・西山家資料◇平井収二郎往来手形◇高知県文教協会蔵、平井収二郎意見書◇土佐山内家宝物資料館蔵ほか

【後期】5月26日〜6月29日

平井収二郎辞世(爪書)、中江篤介記「平井収二郎君切腹の現状」、「平井女史の涙痕録」、いづれも平井・西山家資料、ほか◇高知県立図書館蔵、など

■加尾が愛した庭での、出張・近江屋対談。「青春の光と影」龍馬と加尾と収二郎」6月2日(土)13時〜15時

前田 由紀枝

時代は未来へ — 行動のとき

アメリカフォーラムの成果



「めざすべきものは『私心なき行動』と語り合ったシンポジウム

龍馬脱藩から百五十年の今年三月、一般財団法人坂本龍馬財団（代表理事・森健志郎）が正式に発足した。これは「出でよ！現代の龍馬 脱藩そして世界へ」と、五年後のニューヨーク龍馬ミュージアム設立に向けた事業の母体となるものである。財

道、東京、神奈川、福岡など各地から賛同者が参加して初めての総会と、記者発表。そして百五十人が参加した設立記念シンポジウム、交流会と、会場は熱気に包まれた。

評議員の坂本登さんは「私はちがアメリカで龍馬の思いは世界で通用することを実感した。世界に龍馬スピリッツを発信したい」と語り、ニューヨーク在住の理事・板越ジョージさんは「三年後はすごく忙しくなりま

すね」と笑った。

また、第一回スカラシップ生として県立嶺北高校の大石すみれさんを選び、オバマ大統領の出身高校ブナホウスクール・パンパシフィックプログラムへ今夏派遣することを決めた。

まずは一歩を踏み出した。この一歩からすべてが始まっていく。

前田 由紀枝

坂本龍馬財団への入会者を募っています。詳細はHPをご覧ください。
http://www.ryoma-foundation.org/ 問合せ 080-9199-9126(森)まで

一番人気だった小龍の『東方朔之図』

—「選りすぐり 北川家奇贈資料」展 総括—

野根山二十三士の一人、新井竹次郎の実家である北川家から頂いた資料の展示が3月末で終了した。

当館にとつて最もありがたく貴重な資料は、竹次郎の書簡や文書が収められた巻子である。その巻子の最後には、高知県佐川町出身の田中光頭ひろみねの跋文が添えられている。「忠魂義魄ちゆうこんぎぱく国士無双」と書かれた後に、「涙を揮って之を書く」と記されている。この巻子には、日本を守るために働きたいと強く願う竹次郎の心と、二十三士がなぜ立ち上がったのか、阿波藩や土佐藩からどういう対応を受けたのか、などの記録が収められている。

同じ勤王の志を抱き、脱藩して活躍した田中は、土佐藩からは追われる立場だったが、幕長戦争に長州側として参加し、長州藩士からは信頼を得ていた。竹次郎の書簡集を見ていると、逃亡先の阿波藩では武士として丁寧に扱われているにも関わらず、土佐へ護送された後には、問答無用で奈半利川原に於いて斬首されている。田中は、土佐藩から冷酷な扱いを受けた二十三士と、自分の境遇が重なって涙が溢れてきたのだろう。

展示資料の中には河田小龍の画も多数あり、中でも「東方朔之図」は人気が高かった。東方朔は中国の前漢時代の知識人で、画の他に能や狂言の題材にもなっている人である。西王母の仙桃を盗む様子を多くの画家が描いているが、小龍ほど明るくユーモラスに描いた「東方朔」は見ることがない。

実は、NHK大河ドラマ「龍馬伝」第7話を収録する時、小龍の画を使いたいということで、この画を含めた5点ほどの作品を東京のスタジオに持っていた。その際もこの「東方朔」が一番人気だった。何か人を引きつける魅力を持った画なのである。

今回展示できなかった資料の中には、山岡鉄舟の6曲2双の大きな屏風に描かれた書や、頼山陽の書、吉田松陰の書などもある。今後、これらの資料は、様々な企画展で大いに活用していきたい。 三浦夏樹



河田小龍画「東方朔之図」

大人気!

ピカピカ光り出した手すでに5万人が握手

シエイクハンド龍馬像の4ヶ月

実際に握手できる等身大の彫刻、シエイクハンド龍馬像のお披露目から4ヶ月。みなさん単に握手するだけではないようで、その触れ方も様々です。



さまざまなおポーズで

肩を組む、抱きつく、帽子やマフラーなど自分の持ち物を持たせる、これは基本です。一風変わった持ち物では、100万円の札束はたけがありました。初めてのポリーナスをもらった記念のこと。「恐れ多い」と言いながら手を握る方がいる一方、シエイクハンド龍馬像を力いっぱい叩いたり、ちょんまげを引っ張ったりと少々乱暴な方もいらっ



カツオ人間

雨の日には傘を、寒い日にはダウンジャケットを着せてもらい、皆さんの優しさにふれる日もありました。当館には「拝啓龍馬殿」という龍馬に手紙を書くコーナーがあります。全国から訪れた龍馬ファンたちは、まるで龍馬が今でも生きていて、近況を報告したりするのです。シエイクハンド龍馬像もそれと似ていて、握手をする方たちが生きている人に接するようにしているのが印象的です。



遠足に来た神田小学校の児童と

高台に位置し太平洋を180度見渡せる龍馬記念館は、結婚式の前撮りの人気スポットでもあります。先日は、撮影に来た花嫁さん・花嫁さん・ご親族がシエイクハンド龍馬像を囲んで記念撮影する姿も見られました。まるで龍馬も家族の一員になったようです。最後に、花嫁さんの

ように、館の受付からはシエイクハンド龍馬像の背中が見えます。この館の職員の誰よりも先に、シエイクハンド龍馬像が館を訪れるみなさんを出迎えているという感じがして、本当の意味で、ここが龍馬に会いに来る場所になったような気がしています。



光り始めた龍馬の手

尾崎由紀

著名人も次々と

多くの著名人も龍馬に会いにきました。その顔ぶれは、防衛大学の五百旗頭真（いおきべまこと）・学校長、民主党の運動議員、女優の小林綾子さん、タレントの松村邦洋さん、歴ドル・美甘子さんなど。神戸の清盛隊、高知のご当地キャラクターカツオ人間も龍馬像と握手しにやってきました。番組収録で訪れた手相芸人さんには手相を見てもらった龍馬。日本を変える手相は見えたのでしょうか。 これまでに握手した人数は約5万人。大きくてごつごつしたシエイクハンド龍馬像の力強い手は、すでにところどころピカピカ輝き始めています。

中芸地区の文化の核として 安田まちなみ交流館「和」

安田まちなみ交流館「和」(安芸郡安田町)の企画展示室がオープン一年を迎えた。昨年三月のオープン前からはじまった当館の連携交流から一年が経ち、企画展示などの内容も充実してきた。



小さいながら見応えのある展示室。内容も充実してきた

交流館の旧市川医院部分を展示コーナーとして「龍馬心のふるさと」展を皮切りに、「風になった龍馬」VOL.1、VOL.2と連続して企画展示を行い、熱心なリポーターも出てきている。小さなながらも、静かに展示を鑑賞

できることや、木造の建物が持つやわらかな味わいがファンの輪を広げているようである。また、企画展示室が出来たことにより、龍馬の長姉千鶴が嫁いだ高松順蔵の子孫から貴重な資料の展示協力があったり、千鶴や息子の高松太郎(後に龍馬の跡をとった坂本直)の写真原板などが寄贈されるといううれしいニュースもあった。交流館近くには、龍馬がくつろいだ高松家の跡や、千鶴が龍馬のお守りを求めた安田八幡宮、儒学者・岡本寧浦の生家である乗光寺など、龍馬ゆかりの史跡も多い。



熱心に資料を見る入館者。リポーターも増えた

さっている。高松順蔵の功績や龍馬と安田町との関わりなどが再認識され、安田町の新しい顔ができた。記念館との交流をより深め、敷地内にある旧柏原邸の広間で歴史講座なども開きたい。皆様に愛される場所にした」と、にこやかに語る。県東部・中芸地区の文化の核として、新しい観光スポットとしてこれからも楽しみだ。高知市から十三里(五十二キロ)、安田町が近く感じられる。

前田 由紀枝

平成24年度 第4回現代龍馬学会 総会・研究発表会開催

早くも第四回目の総会・研究発表会を迎えることとなった現代龍馬学会。みなさまのおかげで月例会の充実や会員の交流イベントなど、着実にその歩みを積み重ねてまいりました。龍馬の生き方を通して、今日の社会にある「現代を生き抜くヒント」は私たちの中に確実に生かされ、新しい発信の機会を待つ今日この頃です。

今回の研究発表会は、元産経新聞司馬遼太郎氏担当記者・窪内隆起氏をはじめ、愛媛龍馬の会・会長の大城戸圭一氏、徳島大学名誉教授で歴史研究家の渋谷雅之氏、高知市立昭和小学校

日時 5月12日(土) 午前9時～

会場 国民宿舎 桂浜荘地下大会議室 (龍馬記念館東隣)

テーマ「志(こころざし)に生きる」
発表者・タイトル(敬称略・順不同)

大城戸圭一
「坂本龍馬と愛媛の関わり―
『坂本龍馬は脱藩直前、宇和島藩に来ていた』」

川崎 弘佳
「メタ認知能力から見た龍馬の行動について(仮)」

窪内 隆起
「司馬遼太郎と『竜馬がゆく』」

渋谷 雅之
「龍馬と真吉」

吉岡 郷継
「シェイクハンド龍馬像制作に関わって(仮)」

亀尾 美香
「幕末の『志士』と『志』」

ふるってご参加ください。参加費無料・要申込(先着120名様)。18時より会費制懇親会(一般の方もご参加頂けます)。

西本・佐々木・手島

「罎は知っている！」⑨

土佐の幕末維新

土佐歴史資料研究会 現代龍馬学会

小島 一男

前回までのあらすじ

勝海舟の思いが、山内容堂公の気持ちも動かした。二人の伊豆下田での出会いは春嵐という偶然が、演出した。しかし、そうなるように見越した時代の風の仕業かも知れぬ。脱藩を許された龍馬のエンジンは、一挙に全開である。

(五) 龍馬の秘策
前年の十二月二十五日、孝明天皇が崩御されて以来、政局は長州との連携を深め倒幕の姿勢を示す島津久光等勤王派が台頭し、幕府や公武合体を唱える山内容堂は、主導権を掌握できず、起死回生の妙案はないのか、考えていた。

容堂より上京命令を受けた後藤象二郎は慶応三年六月九日、土佐藩船「夕顔」で、坂本龍馬と共に長崎を出航、兵庫に向かった。岩崎弥太郎や池田道之助らが見送った。小雨降るデッキに立ち、遠ざかる長崎を後藤はじっと見詰めている。その横顔に浮かぶ苦悩を龍馬は見抜いていた。また、同時にその苦悩を取り除く妙案も既に頭の中に構想として用意していた。

龍馬は「いろは丸」の賠償問題を解決に導いてくれた後藤に恩義を感じていた。人間としての信頼も深めていた。だから恩義に報いたい気持ちも強かった。ただ、龍馬の頭の中の妙案は後藤、容堂公を単純に喜ばせるといった類のものではなく、龍馬自身の生き様にまで関係してく

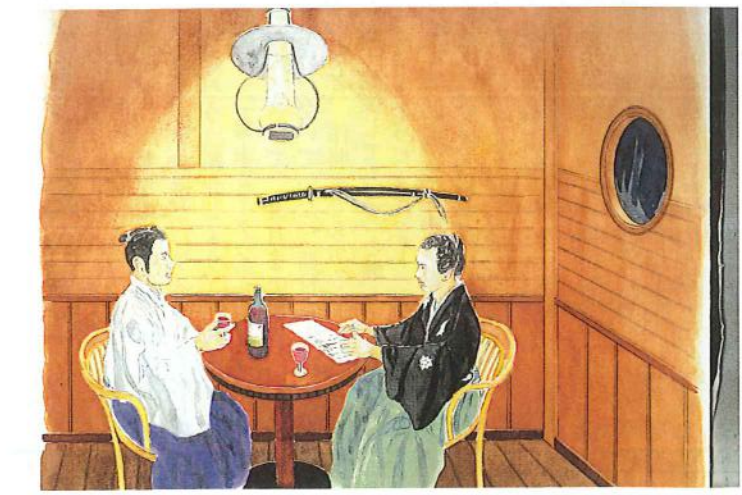
るスケールの大きいものであった。龍馬一人でも成らず、後藤、容堂公の二本の柱が一つになってこそ達成可能なものであった。やがて後藤はキャビンに入った。追って来た龍馬は後藤は「向うに行ったら減点に口に来るんぜよ」とワインを勧め「先日の『容堂公飄筆の証』の話は楽しんで聞かせてもらうたよ。御隠居様はそのようなお方なのじゃ、坂本君」と言いながら壁に掛けてある刀と「一心不乱」の罎を見て微笑みワインを口に運んだ。

「後藤様、先ほどから何か試案の様子ですけん、その御隠居様のごことではござりませんか。」「うーん、よう分かちゅうねや、坂本君。何か申しさし儀、ありそうじゃのう。」「ハハッ、政治向きの事として、この龍馬ひかえちよりましたけん、お許しがいたただけるなら、前々から考えちよりました策が、あるがですけん。」「と後藤を見つめた龍馬の眼差しは真剣であった。後藤

の目は輝く。さらに続けた。「土佐藩が幕府に提案し、幕府がこれを受けて実現すりゃあ、徳川家は一大名として生き残れる。ほんで土佐藩は薩長を抜いて改革の盟主となるのは必定、御隠居様、太守様ご二人の面目もたますろう。」「一息ついて龍馬はワインを干した。熱っぽく語る龍馬は、日本の龍馬であると同時にやはり土佐の龍馬であった。「これじゃーまことこれじゃーこれじゃないぜよ。坂本君!」後藤は龍馬の手を取って叫んだ。そして、壁に掛けてある刀の「一心不乱」の罎を見て大きくうなずいた。まるで、容堂に確認を得るかのよう。いつの間にかキャビンのランタンに火がともり二人の瞳をきらきらと輝かせた。

六月十一日、兵庫に着いた一行は十四日政争渦巻く京都に入った。翌十五日には中岡慎太郎をはじめ在京土佐藩幹部らもこの「大政奉還」論を審論とすること了承し、寺村左膳や佐々木三四郎らによって改定固まってく。

翌七月、後藤らは入れ違いで土佐に帰っていた容堂を「船中八策」に基づき「大政奉還」の建白案を進言し承認を求めた。容堂は手を打って喜



(画) 和田 通博

拜啓 龍馬 殿

174通

23年12月21日〜3月20日



貴殿を何よりも尊敬して

の夢だつたこの地に参りました。今年東日本大震災で、私達が暮らしている宮城県東松島市、そして私が生まれ育った石巻市も大きな被害にあい、心身ともに疲れしました。だからこそ、思い切つてこの地を訪れることにしました。龍馬殿の足跡をたどりながら今後の自分達の将来を考え、龍馬殿の残された言葉に励まされての高知での3日間、充実した時間の中で過ごさせていただきました。眼下に広がる太平洋からもエネルギーをいただきました。龍馬殿がこの太平洋を望みながら日本の将来を考えたように私達も自分達の将来をまっすぐに考えていきたいと思ひます。12月25日 宮城 H.S 女性



習って興味をもちました。

12月27日 大阪 D.K 14歳 男性

48才ですが、念願がなつて初めて来ました。大学時代に司馬さんの「龍馬がゆく」を読んで以来のファンです。記念館へ行く前に桂浜の銅像を見たくて、鳥肌がたちました。本当に憧れの人に28年かかって会えたという感じがします。桂浜のまんなかの地平線そこに立つ大きな龍馬。本当に月並みですが、生きる力を与えていただきました。ありがとうございます。

12月1日 群馬 K.T 41歳 男性

乙女さん宛の「日本の洗濯」

12月1日 愛知 M.F 40歳 女性

私の父は、龍馬さんあなたが好きでした。龍馬さんの生き方をお手本にするように新しいことに。私達にいつも「龍馬さんのように高知だけでなく全国

へ世界へとばたく人になつて欲しい」と言つたほど本当にあなたが大好きでした。父から龍馬さんがどんなにすばらしい人物かいつの間にかされていきました。そんな父も5年前に天国へ旅立ちました。私の父はそちらで龍馬さんに会えませんでしたか？父の髪は龍馬さんと一緒の天然パーマです。未来にいつか夢を語つていただけますか？龍馬さんに会えて父が笑顔でいてくれると嬉しいです。

12月12日 高知 J.A 女性

今日息子の高校受験の為に香川から来ました。親元を離れ、不安やさびしさがたくさんあるけれど、いつか龍馬殿のように国のため、世界のために役に立つ人間に成長して戻ってきて欲しいです。私の大切な息子を遠くから見守つていてください。よろしくお願ひします。

12月13日 香川 R.Y 42歳 女性

歴史なんか過去のことで、今、知る必要はないと思つていた私を変えてくれたのがあなたでした。幕末の厳しい環境の中、日本を変えようと考え、行動した人が育つたところを見てみたいと思ひ、今日ここに来ました。私は鹿児島島の枕崎で生まれ育つたので、海は見慣れていません。しかしここに来て、スケールの大きさに驚かされました。坂本龍馬という人物が大きな心を持ち、日本を変えた理由が分かりました。また必ず来たいと思ひます。それから今年、結婚することになりました。自分にとっては大きな人生の転機です。これから家族を守つていけるよう一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひします。

12月19日 鹿児島 Y.A 27歳 男性

私は歴史が大の苦手です。ずっと丸覚えしようとしていました。その人その人のストーリーを知っていくことが自分の人生へのヒントとなり、もっと知つていこうと思ひました。今日の一番の感動は志です。すべてのところで志がいかに大事で、その志も周りの為に、日本の為にといい思ひが、自分自身を強くすると感じました。ありがとうございます。

12月20日 M.H

初めて高知に訪れました。小学生の子ともたちにはまだ早いかな。でも、へなちょこな現代の子とも達にも何かを伝えたく。龍馬魂、を刻んで帰ります。子ども達がいつかあなたに会いに来たら、父親の想いとともに彼らを一回り大きくしてやってください。

12月21日 東京 C.I 25歳 女性

龍馬さんが手紙という形でたたくさんの言葉を残しているのだから、時を超え伝えるものがあるのだと改めて思ひました。歴史を分析すれば、偉大な仕事をやり遂げたことは、その時代背景からしてもとてもすごいことだけだ。感じたことを言葉に残さないと、未来に語りかけるという思ひがけない、そして他にあまり例のない仕事を成したとも言えるの

12月22日 愛知 M.N 43歳 男性

龍馬さんが手紙という形でたたくさんの言葉を残しているのだから、時を超え伝えるものがあるのだと改めて思ひました。歴史を分析すれば、偉大な仕事をやり遂げたことは、その時代背景からしてもとてもすごいことだけだ。感じたことを言葉に残さないと、未来に語りかけるという思ひがけない、そして他にあまり例のない仕事を成したとも言えるの

編集者より

年末年始は家族連れのお客様で賑わいました。家族旅行、里帰りなどで家族の絆を再認識する機会があったからでしょうか、今回のメッセージには「家族への想い」「決意」など、強い想いの込められたものが多く寄せられました。

尾崎 由紀

ここは館長の部屋 森 健志郎

「幕末カイダンジ(快男児)」

困つたものである。館内を歩きながらつい口ずさんでいる。階段を下りながら口笛になつていく。それほどリズムも歌詞も調子いい歌と言ふことだろう。紹介しよう。作詞 渡辺瑠海 作曲 西村直記 「幕末カイダンジ(快男児)」。瑠海さんはエッセイストで、3月まで館の20周年度事業の助っ人をしていただいていた。西村さんはおなじみのシンセサイザー奏者、作曲家でもある。まあ、曲が聞けぬのは残念だが、想像してちよつと歌つてほしい！

よつちよれよ！よつちよれよ！
うわさの土佐の坂本は
日本を変える カイダンジ
敵さえ味方に 変える奴
太い心を持った奴

と、この調子で4分近い。「坂本」はもちろん龍馬です。中にヨサコイ節の一節も入る。ご想像の通り、この歌は今年8月のヨサコイ祭りデビューします。しかも初デビューチーム「桂浜龍馬プロジェクト」のテーマ曲というわけ。長つたらしいチーム名もそれなりに意味ありで、桂浜に関係のある龍馬記念館をはじめ「桂浜荘」「桂浜水族館」「闘犬センター」「ホエールウォッチングIN桂浜」「さらり高知」「春野の湯」「土佐電鉄」らが、桂浜に元気を。と龍馬で一つになったものだ。NHK大河ドラマ「龍馬伝」で桂浜は賑わつた。龍馬記念館など22年度の入館者はおよそ45万人。過去の最高が平成5年度の14万9千人だからいかに「龍馬伝」の影響が大きかったか想像されよう。間違いなく新たな龍馬ファンが生まれたはずである。龍馬ファンの特徴はリーダーが多いことからすれば、龍馬記念館の入館者は増えるはず。ただし、それをのんびり待っているようでは折角のチャンスに水をさすことにもなる。よし！打つて出よう、との作戦の一つが、ヨサコイ。となつたわけ。通勤のマイカーの中でも響き渡っている。命を賭けた 世直しよ。その歪な歌と衣装で、桂浜からいざ出陣です。一般の参加も大歓迎です。

童謡・龍馬の手紙朗読コンサート 学校現場へ

当館の課題としてよく挙げられるのが、高知県内からの入館者が少ないことである。「高知の人にほんの少し、もう少し龍馬のことを語ってほしい」という思いからスタートした「龍馬の手紙を読む朗読コンサート」も20回を数えた。筆まめな龍馬の手紙には、歴史的事件に関わる話から恋愛などプライベートな話まで、実に細かく書かれている。歴史的背景の解説と合わせて手紙を読んでいくと、幕末の日本を想像することが出来る。

今年度より、この朗読コンサートを子どもたちにも親しみやすいようにアレンジして、高知県下の学校で出張コンサートをこなう。通常1時間45分の朗読コンサートを学校の授業時間に合わせ、紙選びや現代語訳にも工夫をこらした。最初にパワーポイントを用いた「龍馬ものがたり」で龍馬の生涯を勉強。続いて「脱藩後初めての手紙(文久3年3月20日)」と「日本の洗濯(文久3年6月29日)」の2通の手紙を現代語にお話したものを記念館職員が朗読する。この2通の手紙には、龍馬の死生観、幕末の日本のおかれている状況、龍馬の徳川幕府に対する憤り、龍馬に影響を与えた人たちの出会いなど、龍馬が日本を変える大偉業を成し遂げるまでのポイントが盛り込まれている。

また、高知市在住のピアニスト・福田明子さんによる童謡の演奏と朗読をコラボレーションさせることにより子ども達にも親しみやすい雰囲気。「われは海の子」「ふるさと」「花」などおなじみの童謡が、江戸時代の人が書いた手紙を聞く、という子ども達の緊張をほぐし、龍馬の手紙を聞きやすくするという狙いがある。

子ども達には朗読コンサートを通じて、龍馬が何を考え、どう行動したのかを学びてもらいたい。そして、いつか高知の子ども達みんなが、龍馬を語れる、ようになってもらえることを考えている。

尾崎 由紀

■「幕末カイダンジ」よさこいへ

ある日館長が「龍馬をテーマに何か歌を作りたいんだけど、歌詞を考えてみて」と言う。まあいつものようにボツになるだろうと思いつつ、軽い気持ちで書いたのが「幕末カイダンジ」でした。

希望に燃える龍馬の姿を、共に行く同志、あるいはお龍、お登勢という京の女性の視点からおもいきり「すごいなー」と褒めた歌を作ってみたかった。そういう歌詞はあるようで意外とないからです。

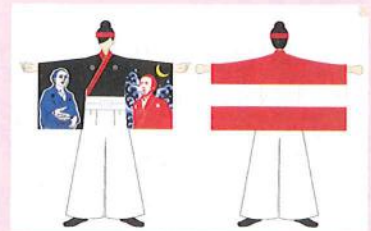
私が見つけた最初のタイトルは「幕末ストラット」というものでした。「幕末」とちょっとパンクな横文字の組み合わせ、これしかない！と思いました。しかし館長は「おい、歌詞はえいげんど、ストラットちゃんぜよ？」と怪訝な顔。

「ストラット」とは「支柱」という意味で、太平洋、幕末、すべての支柱となった龍馬の生きるパワーをあらわしたと熱弁しましたが一向に理解してもらえず、「ストラップみたいでいかん」と言うのです。他のを考えるよういわれ、長い間考えましたが全然浮かびません。すると、ふいに館長が「おい！快男児はどうじゃろう？」と言い出しました。「快男児？」。若い世代には死語、まことに古い言葉です。今度は私が苦笑いして「さあ、どうでしょうねえ」などと聞き流しましたが、その後、西村直記さんが作った曲を聴いたら「坂本龍馬は・カイダンジ」というフレーズがびたりと独り立ちして、まさに「龍馬の姿」になっていました。これには本当に驚きました。

その後、あれよあれよという間にこの歌は桂浜のよさこい立ち上げにつながり、振り付け、衣装もできあがってきました。龍馬への思いが歌詞になり、曲になり、踊りになり、衣装になり、チームになり、驚くべき勢いで桂浜の観光振興へつながっていきつつあります。

親しみのあるいい歌です。かねてから私の願ひだった「子供からお年寄りまで親しめる、古きよきよさこいと龍馬の融合」。シェイクハンド龍馬像といっしょに、長く皆さんに愛され、大きく育ててほしいと思うばかり。毎年よさこいの季節には、鳴子のはじける音とカイダンジが桂浜を駆けてくるよう願っています。

渡辺 瑠海



■もんきり教室で龍馬記念館アピール

多くのお客様で賑わう土曜日のショッピングセンター。1月22日、イオン高知にて高知県文化財団主催の「ミュージアムへ行こう」が行われました。文化施設に関心を持ってもらうと企画されたイベント。美術館、歴史民俗資料館、埋蔵文化財センターと共に龍馬記念館も参加。美術館のエコバック作り、埋蔵文化財センターの弥生土器接合体験、歴史民俗資料館のオリジナルキャラクター「もとかかくん」によるじゃんけん大会とさまざまなワークショップや体験コーナーを準備し、お客様をお迎えしました。龍馬記念館では毎年、夏休みに実施する紋切り遊びのワークショップを準備。紋切りのしおりとコースターを作ります。江戸時代から遊ばれる紙切り遊びが手軽にできるとあって小さな子供さんからご年配の方まで幅広くご参加いただきました。今回、大人の方にも好評だったことが印象に残ります。あるご年配の方は指を動かす動作から楽しんでおられる様子でたくさんのおしおり、コースターを仕上げてくださいました。

県内最大の集客力を持つイオンで行った今回のイベント。龍馬記念館に足を運ぶ機会の少なかった県民の皆さんにこのイベントを通して少しは身近に感じていただけたのではないのでしょうか。

山中 真優



親子で仕上げる紋切りしおり&コースター

■「絵本『John Manjiro Was Here - ジョン万次郎物語 -』原画」展 (武内光仁作画) “宇宙を感じよう!!”

4月・5月の“海の見える・ぎやらりい”では、武内光仁さん作画の絵本「John Manjiro Was Here - ジョン万次郎物語 -」(ラポ・教育センター出版)に関する展示会を開催しています。

4月は、英語と日本語で書かれたジョン万次郎の生涯に、武内さんが挿絵を描いた絵本の原画32点の展示です。絵本の装丁となっている原画には、長い指をした手形に囲まれた万次郎が、独特な味わいの色彩感覚で描かれています。その手形の意味は、「指の中に宇宙がある」万次郎とのコラボレーションを表現したモチーフだそうです。

5月は、武内さんが審査員をされた「ジョン万次郎全国児童画公募入賞」展となります。最年少は2歳から最年長は高校3年生の個性豊かな作品約80点が並びます。ジョン万次郎の物語を、何層にも膨らませたイメージで表現した児童達の作品世界。豊かな感性を十分楽しんでいただけたと思います。皆さんのジョン万次郎へのイメージも、重ねてぜひご覧になってみて下さい。

中村 昌代



「絵本装丁の原画」

入館状況

2012年3月20日現在 (開館以来7,392日)

- ◆総入館者数 3,173,609人
- ◆最多入館 (2010年5月2日) 6,686人
- ◆最少入館 (2004年10月20日、台風のため) 8人
- ◆2011年度最多入館(2011年5月4日) 5,502人
- ◆2011年度最少入館(2011年7月19日) 47人

編集後記

東日本大震災から丸1年があつという間に過ぎた。人間社会の原点の見直しを迫られた思いがする。今もその気持ちに変わりはない。確かに復興の声は聞こえる。しかし一方で現実の世情は震災直後より、さらに悪化したものの方が多いのではないだろうか。何事においてもこれでいいのか、その問いが追いかけてくる。“龍馬発信”の責任の重さを感じている。飛騰は81号へ。いまいち腰の定まらぬ不安定感に悩まされつつの81号となった。(モ)

館だより“飛騰”第81号(年4回発行)表紙題字:書家 沢田 明子氏

発行日 2012(平成24)年4月1日

発行 高知県立坂本龍馬記念館

〒781-0262 高知市浦戸城山830

TEL (088)841-0001 FAX (088)841-0015

http://www.ryoma-kinenkan.jp

「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00~17:00 年中無休

入館料 一般500円・高校生以下無料

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者1名
高知県・高知市長寿手帳所持者は無料

館だより「飛騰」は、郵送料のみのご負担でお届けいたします。ご希望の方は、90円切手5枚をお送りください

高知県坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

私のテーマ

「龍馬ゆかりの地・安田町と龍馬精神」

竹内 土佐郎



安田で育まれた感性
義兄 高松順蔵の下で

龍馬は、二五〇年余に亘る徳川幕府を終焉させ、明治政府の樹立に貢献した維新のヒーローである。高知城下に郷土坂本八平の五人兄妹の末子として生まれた。その長姉千鶴は、母方の従兄である安田郷（現安芸郡安田町）の郷士・高松順蔵の妻で、順蔵は儒学者であり、和歌・南面に加え剣術にも秀でた文武両道の人。近郷の志士達に与えた影響は計り知れない。順蔵の高風と、その学徳を慕って教えを乞う者は多く、門下生には龍馬の盟友・中岡慎太郎、海援隊士・石田英吉、甥であり海援隊士、後に龍馬の嗣子となる高松太郎（のち坂本直）、同じく甥で兄権平の跡を継いだ自由民権家の高松習吉（のち坂本直寛）、土佐勤王党員で野根山二十三士首領・清岡道之助ら多くがいる。

国思う志をこめて、
私心なき仲間達との出会い

喧嘩や勉強を好まず、泣きみそで寝小便たれの末子・龍馬を、強くしっかりとした人間に育てたいと

敵父坂本八平が安田の順蔵、千鶴のところへ連れて来たと思う。それほどに順蔵という人物の評価が高かったということである。実際、古老の話によると「龍馬は、度々安田へやってきて順蔵のいない留守の時などは座敷に無断で上り込み、大の字になって寝転んでいた。また、鴨居に手を掛け眼下の広漠とした太平洋を眺め、何かもの思いにふけるような姿を幾



「補正成・正行親子桜井の別れ」高松順蔵

龍馬はこの順蔵の家を拠点に高松太郎、石田英吉、中岡慎太郎、清岡道之助、柏原省三ら、志を同じくする仲間達に出会っている。隣の田野町にある「田野学館」には武市半平太が藩命により剣術を教えに来っていたし、そうした情熱が集合する要素がこの地域に備わっていたのかも知れぬ。中岡慎太郎、清岡道之助などは言うに及ばず、石田英吉などは元々将来の自らの生き様として医師を志していたのが「今、身の治療よりも、むしろ国家の治療こそ大切である」と海援隊士に。また野根山二十三士の一人・柏原省三は「御国の政を矯正するに、死をもつて君へ御奉公する覚悟である。御世話になつた父母の先途を見届けもせず死して名を後世に上げるのも孝行と存ずる」と国のために散つている。そして龍馬は幕藩体制の世の矛盾と不条理に憤りを感じ「日本を今一度せんたくいたし申候」を念頭に奔走した。文武両道によって鍛えられた龍馬は、自信や明るさ、優しさを持ち、人脈を広げ、また発想力、柔軟性、先見性、実行力などを高めていった。その結果が薩長同

度となく見かけた」という逸話が残されている。長い幕藩政治の中で土佐藩は、特に厳しい上士と下士という身分差別があった。郷士たちはこの格差に怒りと悲しみを持っていた。龍馬が眼前に開ける太平洋の風を受けながら、義兄順蔵の下で「人間とは？」「日本の将来」などを談義していた姿が想像されるのだ。

盟、船中八策、大政奉還という偉業に結びつく。ただ、龍馬は、明日の日本を見ることはなかった。アメリカの民主政治を学び日本の近代国家を夢見ていたであろうことを思うと、本当に悔やみきれない。

「龍馬スピリッツ」とは

龍馬をこの幕末の改革に駆り立てたスピリッツは何であったのか。龍馬は身分差別による苦しみや悲しみから脱却し、万民が平等で平和であることを願い、行動した。その願いと行動こそが龍馬精神であり、命を懸けて新しい国づくりの実現に向かわせた。この龍馬精神は世直しの鑑としてこれからも燦然と輝き続けることであろうし、その根底には脈々息づく「安田時代」抜きには語れないと思う。

私の中芸高等学校時代に

ここからは私事だが、これら多くの志士たちが学んだ田野学館跡であり、その姿を彷彿とさせる中芸高等学校で27年間もの長きにわたって教鞭をとることができた。このことを私は誇りに思い、また自身の母校であったが由に、非常に感慨深いものがあった。

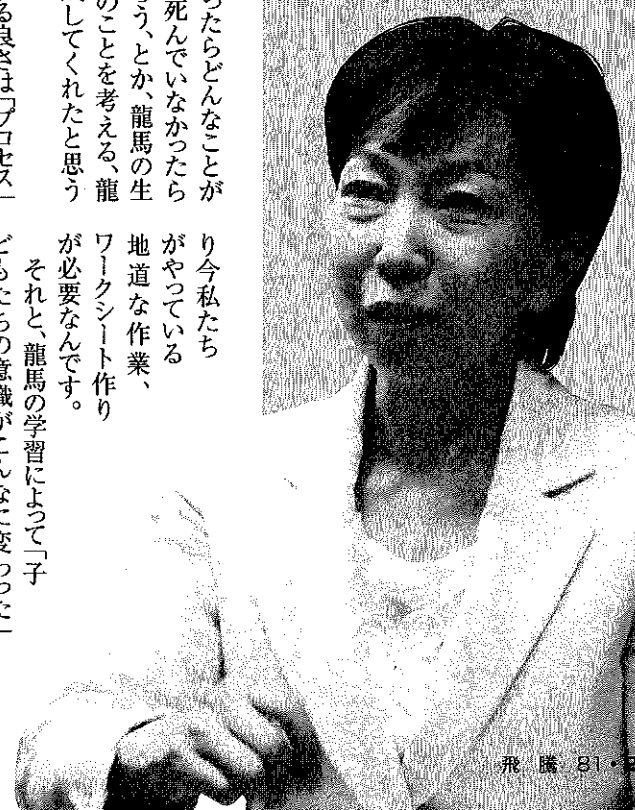
由緒あるこの土地で、先人たちの魂に思いを馳せ、最後に校長として文武両道、柔道や勉学に生徒たちと共に励んだことが懐かしく、また気持ち新たにさせられるのである。

話題人 インタビュー

未来の龍馬たちへ

龍馬から学べるきらめく未来

川崎弘佳さん 高知市立昭和小学校教頭
現代龍馬学会理事



今年11月8日、9日、昭和小学校が全国社会科で代表校として「坂本龍馬」を全国社会科の教科書に組み込む提案をする。その中心となり、龍馬さんならに奔走し、活動しているのが川崎先生だ。

龍馬のライフスタイルは小学生には格好の教材になると熱く語るその核心とこれからの展望についてうかがった。

龍馬と川崎さんの最初の出会いは？
私が初月小学校6年生の頃です。その頃、地元の方々が、6年生全員を講堂に集め、坂本龍馬の話をしてくださった授業がありました。

当時相当高齢の方だったので、もうお亡くなりになっているかと思うんですが、話のうまい方でした。

鮮明に覚えているのが、龍馬が京都の近江屋で暗殺されたときの場面です。身振り手振りで臨場感があつて、子ども心に「ああ怖い！龍馬、なんで死んでしまったんやろう、今から日本を変えられたらいいな」と胸をしめつけられました。その話が私の頭に小学校6年の授業としてずっと残っていたんですね。

思えば、郷土の歴史を学ぶすばらしい機会を、当時の社会科の先生が作ってくれたおかげで、今、私は龍馬を社会科の授業にしようと思つてきたのかもしれません。



龍馬の親近感と可能性

小学校では卑呼とか聖徳太子という歴史人物を勉強します。もちろんそこから子どもたちはいろいろなことを学ぶわけですが、「親近感」という意味で群を抜くのはやはり坂本龍馬だと思います。

小さい頃いじめられついで寝小便たれで弱虫だった龍馬が、新しい日本を作るという大志をもつて時代を変えようとする。そして、もう少しというところで暗殺されてしまう。未来への可能性を残したまま、歴史から突然いなくなってしまうんです。

それはもちろん悲劇ではありますが、子どもたちには、そこから先を考える教材になりました。

ます。もし自分が龍馬だったらどんなことができるだろう、とか、もし死んでいなかったら日本はどうなっていただろう、とか、龍馬の生き方を知ること、自分のことを考える、龍馬はそういう可能性を残してくれたと思ふんです。

それから、龍馬を学習する良さは「プロセス」です。龍馬の努力とか根回しだとか、縁の下での力持ち的なプロセスがいかに大切かを、今の子どもたちに教えたい。

西郷隆盛、木戸孝允という歴史の表舞台に立つ人がいる裏で、「所懸命根回しして、準備をした人がいることにも、もっと光を当ててほしい」と思っています。

今まで龍馬を学んだ子どもたちはどのような反応ですか？

龍馬の話はもうしょっぱなから子どもは完全に共感し、自分のことのように親近感を抱いてくれるんです。そして、彼の人生から前向きな気持ち、優しさと挑戦する強さの両方を子どもたちは感じとってくれているみたいです。「勇気がありがとう」とか、「僕も将来は龍馬のように何かをしたい」という、強い決意を感じる感想文が非常に多いんです。

この龍馬学習は全国展開ですか？

もちろんです！全国の学校の先生に社会科の「龍馬」を知っていただくためには、やはり今さらうわ、嬉しい(笑)。でもそのあとちょっと体を壊してね、しばらくして高知に戻って、NHK高知放送局にいたんです。

ええ？！そこでいったい何をされていたんですか？

うふふ、音楽番組を担当していました。DJ、ニュースの選曲なんかをする音楽効果の関係です(笑)。当時の部長さんには「江戸の娘が着物の裾を捲り上げて下駄でカタカタ走っているみたいな喋りだね」とか言われてましたね。

えー？！びっくりですよ！(笑)

実際はもっと早口だったかもしれないですね。私はこのテンポがよくて採用されたぐらいのことですから(笑)。

しかし、それがどうして今小学校の教頭に先生に？！

もともと学生の頃から児童文化研究会でボランティア活動していたんですが、「私は教師は嫌、もっとマスコミでクリエイティブな仕事をしたい」ということで、広告、放送という仕事をやってきたんですけど、それというのは自分にとってアウトプットばかりで消耗してしまつたんです。

そう、もしかしらたらその道に才能のある人ならそうは思わないのかもしれないけど、私は

り今私たちがやっている

地道な作業、ワークシート作りが必要なんです。それと、龍馬の学習によって「子どもたちの意識がこんなに変わった」という成果も伝えないと、先生たちは積極的になつてくれない。

龍馬をテーマにしたことで、私たちは教師も子どもも確かな手ごたえを感じていますし、何より先生たちが「学んでよかった」と言っていますので、その点は自信をもつてがんばっていきなさいと思います。

川崎先生はアメリカフォーラムにも参加されましたが、特に印象的だったのはどのようなことですか？

うん、日本の龍馬を学ぶ子どもたちと向こうの子どもたちがディスカッションができたことは画期的なことでした。ただし、ハワイとニューヨークの切り口は若干違っていました。ハワイのプナホウスクールの学生さんたちは「日本語の習得」を主眼としていたので、質問も「龍馬の好きな食べ物は何？」というものでしたが、「ニューヨークの方は「日本文化コース」を学ぶ高校生たちですから、「平和について龍馬は

無理だな」と思った。そんなとき、続いていたボランティアを通して周囲には教員が多かつた。そのとき気がついたんです。「私は創造的な仕事っていうのはメディアの仕事だと思ひ込んで来たけど、待てよ、教育こそ創造的な仕事なんじゃないか？」とね。気がついたわけですが(笑)。子どもを育てるといふことは無限の可能性を育てること、これは究極の創造的な仕事じゃないかと、NHK行きながら通信教育で勉強して、教員免許をとって、それから現在に至ります。

今年実施される龍馬の社会科教育を再びスタート地点に、先生の挑戦が始まるんですね。今、どういった気持ちでいらつしやいますか？

子どもたちは無限の可能性を持っていて、やはり教育は最高に創造的な仕事だなぁと改めて実感しています。

11月の大会を楽しみにしています！今日ありがとうございます。



どのように考えていたのか」という内容の濃い話し合いです。

そのとき思ったのはやっぱりアメリカの高校生は意見をきちんと言えろなぁという事です。日本の高校生も本当はしっかりした意見を持っているはずなのに、やはり恥ずかしがる。日本代表、負けずじつかりがなければ！と席で応援してましたけど、最後はがんばって意見を言えてましたよ(笑)。

でも表現能力をつけるという意味での教育レベルについては、日本はまだまだがらばらねばいかなあと思ひました。

私たちが教育をしていく目的は「自発的に学べる子ども」になつてもらふことなんです。これからは求められるのは、自分で判断して、考えをしっかりと述べる事ができる子ども、話し合える子どもです。そのためのもモデルとして龍馬は非常にいい教材です。待ちではなく、自分から出かけていく積極性、情報収集能力、判断力、こういったものを子どもたちに教えていきたいと思います。

日本にホームステイされたアメリカの先生方も活発に交流されましたよ。

そうなんです。こちらでは小学校でウェルカム集会を開催しました。面白かったのは、おのタタキづくりの笑演をしたとき、子どもが包丁で刺身を切っているのを見て、ジャパンン

サエティの方が私のところにそつと寄つて来て「先生、大丈夫ですか、弁護士頼みますか？」と真剣におつしやつたことです。アメリカでは万が一のことがあつたら訴えられるというんです(笑)。

カルチャーの違いですね(笑)。

そう。日本では調理実習でちゃんと包丁を使いますが、アメリカでは絶対に子どもに包丁を持たないんだそうです。他にもいろいろとアメリカ文化、社会の違いを垣間見て、非常に勉強になりました。

アメリカでは、団長さんのいるニュータウン・ハイスクールを訪問してきました。とても美しい学校ですね。アメリカでもベストテンに入る優秀な高校です。そこで目にした「日本文化コース」の学生たち80人による龍馬の堂々たる展示には感激しましたよ！龍馬が見事に海を渡つていました！日本のホームステイのことも細かくニュースレターに下さつていた。この展示を見たときに、「龍馬つながり」で心を通わせることのできる教育つていのは世界共通なんじゃないだろうかと思つたんです。

教育こそ、私の創造的な仕事

少々余談ですが、川崎先生はもともとマスコミ関係の方だったと？

はい(笑)。私は最初は東京で広告代理店勤務でコピーライターだったんですよ(笑)。

その頃は今からまだ30年前なので、コピーライターという仕事は一般的じゃなかったんです。ちょうど糸井重里さんたちが世の中に出た頃です。「え？コピーする仕事？」なんてよく言われてね、なかなか認知されにくい仕事だったんです。

コピーライターといつたら、私たちにはあ

これがの職業でしたよ！



川崎弘佳さん
現代龍馬学会理事

第50回 全国小学校社会科研究協議会 研究大会・高知大会

平成24年
11月8日(木) 13時30分～16時50分
9日(金) 9時30分～16時10分

県民文化ホール(グリーンホール)
分科会場(第1) 南門市岡豊小学校
分科会場(第2) 高知市立昭和小学校
主催：全国小学校社会科研究協議会
高知県社会科教育研究会

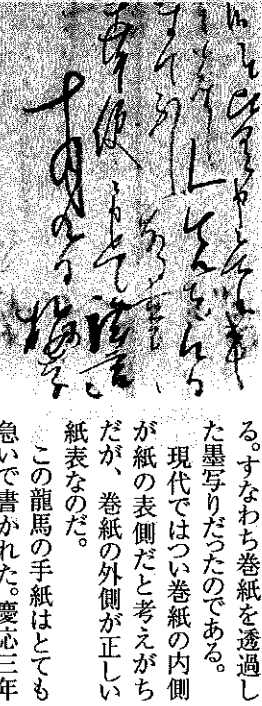
こぼれ話 ― 大歩棒当記(九) ―

左手に巻紙、右手に筆

京都国立博物館 宮川 禎一

龍馬が土佐の家族にあてた最後の手紙は慶応三年十月九日。これは龍馬がどのような姿勢で付けの兄権平あてのものであろうか。京都国立博物館に収蔵されるその手紙は長くはない。大政奉還直前の混沌とした状態の京都へ無事に到着したことを家族に知らせるものである。

この手紙の実物をよく見ると、うすうすとした墨の文字が本文の左下部分に付いていることが分かる。有名な手紙なのでお手元の図録などにも掲載されているのだ。筆者はこの墨写りがどういう意味なのか、これまであまり気にしてこなかった。



この手紙の左側に付いているのは、たまたま龍馬の他の手紙で、まだ見つかっていないが、この見出しが「梅太郎」の「梅」の字(点線内)で最も明瞭である。すなわち巻紙を透過した墨写りだったのである。現代ではつい巻紙の内側が紙の表側だと考えがちだが、巻紙の外側が正しい紙表なのだ。

この龍馬の手紙はとても急いで書かれた。慶応三年十月の京都が忙しいのは日本史上に明らかだ。坂本龍馬がその当事者であったからである。

(写真)慶応三年十月九日 坂本龍馬書簡 兄権平あて(部分)

(前回の記事で高松順蔵のことを医師と記したが、高松清和氏・土居晴夫先生から「郷土であるとの御指摘を受けた。おわびして訂正いたします」

村では竹内村長さんや郷土史家の門脇鎌久さん等と、龍馬とお龍談議が出来たことも有難く嬉しく思っている。今後も更なる交流と絆の深まりを願ってやまない。

“話してみるかよ”

“歌は世につれ人につれ” 永国淳哉

“歌は世につれ人につれ”という。関義臣の懐旧談「海援隊の回顧」の中に、龍馬が登場し、長崎で唄っている。

「隊士等を率ゐて、玉川、花月どへ登楼し、平生の無口に似合はず、盛んに流行唄など唄ふ。(中略)

龍馬は、顔に似合はぬ、朗々、玉を転ばすやうな、可愛い声で『障子開ければ、紅葉の座敷……』と、例のヨイショ節を、能く唄った。」

龍馬が「可愛い声」で唄っていたというのである。

最近、話題になっている「おんちゃんコーラス」。お得意は“龍馬は、今もいきている”で、台詞もあり、何度聴いてもいい。大声が気持ちいい。

私たちより一代世代前の日本男児たち。“土佐のいごっそう”を画に描いたような亡父を思い出す。晩酌の後、気分のいい時は妹を膝に乗せ“ミカンの花が咲いていた・・・”と、得意げに唄い出す。

まさに“顔に似合はぬ、可愛い声で”唄うのである。

“思いでの道、丘の道、はるかに・・・”

「日本の詩歌には悲哀と優しさが底流に存在している」と、新渡戸稲造が「武士道」で述べている。

考えてみると、自分も同じだった。「日本男児たるもの、他人の前で歌など唄うものでない」と、同級生も皆考えていた。中高校時代の音楽時間、真面目に唄う男児は一人もいなかった。

それが、大学合唱クラブやハワイヤンググループに入り、歌声喫茶へ出入りし、変わった。カラオケから今や童謡まで唄って楽しんでる。

声も、“腹から出す”練習をしている昨今である。

コラム・龍馬のこと

龍馬とお龍が紡ぐ縁 お龍さん祭りのこと

元高知市議会議長 岡崎洋一郎

龍馬のたく短い人生の中で、維新回天の大業に奔走しつつも、楠崎家のお龍さんとの出会いと、二人が強い絆で結ばれてすごした龍馬終焉前の数年は、人間龍馬の生涯を一際ドラマチックに彩り煌めかせている。龍馬に先立たれた傷心のお龍さんの晩年は幸せと言えるものでは無かったようだが、龍馬と共にした日々が心にまわりついて、お龍はそれを消し去ることが出来なかった人生だったように思う。このお龍さんのお墓が横須賀市大津の信楽寺にある。毎年十月十日頃に開催されるお龍墓前祭に、私が初めて出向いたのは平成十五年で高知市議会副議長としてであった。高知市議会と横須賀市議会は、龍馬とお龍の縁で、平成九年五月に当時の岡村康良議長と竹折輝隆議長が、京都伏見で第十四代当主寺田屋伊助氏を立合人として両市の友好議会の盟約をしていることによる。私は初参加時の挨拶で「お龍さんの妹の起美(君枝)が嫁いだ菅野覚兵衛や、後に横須賀でお龍と松兵衛さんの仲人をした安岡金馬等海援隊士と同じ芸西村の出身であり、現在の住いがこと同じ地名の大津で、更にクレ射撃の射友で横須賀市議の青木良夫氏(故人で今はご子息秀介氏が市議)とのご縁も重なって、とても親しみを覚える」と話したことであった。

以来議長職の時も含め去年で公私五回、お龍墓前祭に参加した。そして横須賀市議会の諸兄や地元の関係者と絆を深め合っ今日に到っている。参加の都度高知市の観光部課長や議長さんと、また芸西村からは藤戸教育長に同行を呼びかけ、一度は龍馬研究会の宮尻さんとも参加出来て交流を深めた。安岡金馬の子孫の中村和義さんご夫婦や、横須賀龍馬会の皆さんとも交流が深まり、そんなご縁の拡がりから、去年は高知市の龍馬生誕祭に、お龍さんの家系楠崎家の子孫である守谷恭子さんとお嬢さんの由美子さんを高知にお迎えし、お龍と君枝の銅像のある芸西村をご案内出来た。

高知県立坂本龍馬記念館
〒781-0262 高知市浦戸城山830

TEL(088)841-0001 FAX(088)841-0015
http://ryoma-kinenkan.jp